# 概要

主にセプチルゴン属の人々が話している言語。アトランティス語がどんどん変化してセプチルゴン語が出来た。実は陸語とほぼ同じ言語だったが、意思疎通を出来なくするため単語の意味が大幅に改変された。セプチルゴン語はいくつか派生言語があるが、文法はほぼ同じである。違うのは単語くらい。

# 文字

基本的にアルファベット（大・小文字）や**!**、**?**などを使う（英語と同じ）。しかし、母音が日本語より多く、ギリシャ文字もある。

## 母音

a,i,u,e,o,ι,ε

ι:aとiの間の発音

大文字のときはIと区別するために**Î**と書く。

ε:eとoの間の発音

大文字のときはEと区別するために**Ê**と書く。

# 単語

単語の先頭は大文字。英語は文章の先頭だけだが、セプチルゴン語は単語それぞれが大文字。人の名前や英語で言う**the**が付く名詞(固有名詞)は全部大文字で区別。文末はピリオド"."。英語で言うbe動詞とかはない。伸ばし音は母音を並べて表現する。複数形は名詞の後に"su"を付ける。撥音便は母音を重ねる。

# 文法

SV,SVOO,SVCO,SVC構文で構成され、目的語を" "で囲う。セリフなどを表すときは' 'で囲う。補語(C)は英語とは逆の順番。

助動詞は動詞の後に付ける。実は主語も省略出来ることがある。(命令文など、主語が限られてる場合)

# 自動詞・他動詞

## 自動詞

目的語を要する動詞。

Îri oHorong "Matto".(イァリ オホロン マット)

私は鞄を持った。

## 他動詞

目的語を要さない動詞。

Îru iNeker.(イァル イネケア)

あなたは走るだろう。

# 命令文・疑問文・否定文

文法は現実の英語に近いが、大きな違いは疑問文と命令文。命令文は肯定分の文末に"!"を付けるだけで命令文になる。発音は文末を伸ばすことで言い分ける。疑問文は文末に疑問文を作るための語（英語でいう"What","How"など）を付ける。そして文末は"?"。否定文は文末にNulを付ける。

Dan Rihho "Eluvεnsu"!(ダン リッホ エルヴェォンス！)

早く宿題をしなさい。

Îru Oruton "Vendjae" Ron?(イァル オルトン ベンジャー ロン)

あなたは何の動物が好きですか？

Êxootha Destroom Den Nul.(エォスォーサ デストローミュ デン ナル)

そこで遊ぶことは出来ない。

# 動詞変形・基本

いずれも動詞の前に1文字つけるが、必ず小文字。

## ①進行形

動詞の前に"h"を付ける。

"h"はセプチルゴン語で「進行形」を意味する「Hmen(ヒーメン)」から。

Neker(ネケア・走る)→hNeker(ヒネケア・走っている)

## ②過去形

動詞の前に"o"を付ける。

"o"はセプチルゴン語で「過去形」を意味する「Omen(オーメン)」から。

Neker→oNeker(オネケア・走った)

## ③受動形

動詞の前に"m"を付ける。

"m"はセプチルゴン語で「受動形」を意味する「Mmen(ミメン)」から。

Neker→mNeker(ミネケア・走られる)

## ④未来形(意志形+推量形)

動詞の前に"i"を付ける。

"i"はセプチルゴン語で「未来形」を意味する「Imen(イメン)」から。

主語が1人称の場合は「意志形」、2,3人称の場合は「推量形」と呼ぶが、それらを合わせて「未来形」という。

Neker→iNeker(イネケア・走るつもりだ or 走るだろう)

## ⑤仮定形

動詞の前に"r"を付ける。

"r"はセプチルゴン語で「仮定形」を意味する「Rmen(リメン)」から。

Neker→rNeker(リネケア・走るなら)

"r"の後に"n"を付けると否定仮法となり、「～しても」という意味になる。

rNeker→rnNeker(リンネケア・走っても)

## ⑥形容形

動詞の前に"j"を付ける。

"j"はセプチルゴン語で「形容形」を意味する「Jmen(ジメン)」から。

Neker→jNeker(ジネケア・走るような)

## ⑦副詞形

動詞の前に"s"を付ける。

"s"はセプチルゴン語で「副詞形」を意味する「Smen(シメン)」から。

Neker→sNeker(シネケア・走るように)

## ⑧名詞形

動詞の前に"k"を付ける。

"k"はセプチルゴン語で「名詞形」を意味する「Kmen(キメン)」から。

Neker→kNeker(キネケア・走ること)

## ⑨使役形

動詞の前に"p"を付ける。

"p"はセプチルゴン語で「使役形」を意味する「Pmen(ピメン)」から。

Neker→pNeker(ピネケア・走らせる)

# 動詞変形・応用

複数の動詞変形を組み合わせることもできる。

接頭語を付ける場合は日本語に訳した順番。

過去進行形→過去(o)進行(h)→接頭語はoh

受動仮定形→受動(m)仮定(r)→接頭語はmr

変形パターンは一覧表を参照。

動詞変形が3つ以上が合体したものもあるが、それは省略。